

はじめに

資料①から

2017～8年時点での認識

## 1 公衆衛生分野の自治・分権史 (資料②)

- ・特集の背景
- ・府県による取締行政としての出発
- ・昭和初期における変容
  - 厚生省の設置
  - 保健所網の整備←「戦間期グローバル化への対応」という面も
- ・「健兵健民政策」←総力戦体制の一環
- ・戦後の推移
  - 憲法25条2項
  - 保健所行政の再スタート
  - 市町村における保健事業の展開
  - 中核市における保健所設置
  - 保健所長の資格規制問題－分権・自治と専門性の相克
- ・連携による専門性確保の方向性－自主規制・民間活用だけでなく

## 2 疫病対応の行政史から (資料①)

<特集の背景>

### (1) 737年における対応

- ・続日本紀、典薬寮の勘文、太政官府－公文書の保存
- ・別の事柄についての往時の表現を借りれば、「和み安み為すべく」なされた諸政策。「驚ろ驚しき事行（ことわざ）なせそ」

### (2) 1918年における対応

- ・施策の内容
- ・実施組織－保健所登場以前、「府県による取締行政」の時代
- 県による偏差 福井県の例

### (3) 現代における対応

- ・行政組織法で何ができるのか

むすび

緊急時における地域の自主性・専門性発揮 (資料③)

#### <参考資料・文献>

斎藤誠「疫病対応の組織と作用－行政法の歴史と理論から」法律時報 93 巻 5 号 51 頁以下、2021 年、(資料①)

同「公衆衛生における地方自治・分権の軌跡と展望」公衆衛生 82 巻 4 号、266 頁以下、2018 年、(資料②)

及びそれぞれに注記の文献

に下記を追加

スペイン・インフルエンザ対策に関する内務省衛生局編報告書については、現代語訳も出版された。西村秀一訳『現代語訳 流行性感冒 一九一八年インフルエンザ・パンデミックの記録』（平凡社、2021 年）。同著は、東洋文庫版では省略された、原著第七章「英吉利及北米合衆国に於ける流行状況並予防方法の概要」も採録している。なお、原著は、国立保健医療科学院ホームページに図書館・貴重統計書 No. 73 資料 I D00008882 として収録されている。

近現代日本の感染症対策史については、手島豊「感染症対策と医事法学」法律時報 93 巻 3 号（2021 年）57 頁以下も参照。手島論考、斎藤資料①を含む、法律時報の関連特集諸論考については、近々、増刊号に一括収録の予定である。

今般の状況についてはその後も多くの関連書籍が登場しているが、ここでは金井利之『コロナ対策禍の国と自治体』（2021 年）を掲げる。